

ちよひめ

登録番号：第1523号

育成者：吉田雅夫 山口正己

登録年月日：昭和63年1月18日

京谷英寿 小園照雄

登録者：農林水産省果樹試験場

西田光夫 石澤ゆり

(茨城県つくば市藤本2-1)

来

歴：「高陽白桃」と「さおとめ」

の交雑実生

特性

■栽培特性

樹姿は若木の間はやや直立性であるが、結実量が多くなると「布目早生」と同程度に開張するようになる。樹勢は中程度かやや強く、「高陽白桃」とほぼ同じ位で、「さおとめ」よりも弱い。結果枝の長さは中程度で太さはやや細い。枝の発生は多いが、結実過多などで樹勢が弱ると葉芽の着生が少なくなるため、肥培管理、摘果、剪定などに注意して、中程度かやや強めの樹勢を維持するようにする。

花芽の着生は良好で、若木のうちは複芽が多く、樹齢が進むと「高陽白桃」に似て、複芽と単芽がまざる傾向が見られる。開花期はやや早く、「布目早生」と同時期で「白鳳」より少し早い。花は普通咲き、一重で桃色。結実は良好で生理落果も少ない。満開後約75～77日で熟す早生種で、収穫期は「さおとめ」（満開後73日）より少し遅く、「布目早生」（満開後80日）より少し早い。果皮の着色が良好なので無袋栽培が可能である。

■果実特性

果実は若木のうちは150～180g位であるが、成木になると200～220g位になり、樹上部の果実には300gを越えるものも見られる。果形は短楕円形で、「さおとめ」より腰高である。果頂部は浅くへこみ、こうあ（梗窪）は広さ、深さ、ともに中位である。片肉果は少なく、玉揃いはやや良好である。

果皮の地色は白色、陽光面は紅色で、「さおとめ」と同様によく着色し、「布目早生」より美しい。着色はばかして、紅斑と条も見られる。毛じの長さ、密度ともに中位である。

果皮は強さ中位で、はく皮は容易である。果肉は白色で、肉内に少し紅色素が入る。肉質は柔軟で多汁、やや密で「高陽白桃」に似る。繊維は中位である。甘味は若木のうちは屈折計示度で10～11度であるが成木になると12～13度となり、早生種としては高い。

酸味は少なく、pH4.5位である。渋味は年によってわずかに生じることもあるが、ほとんど問題にならない。食味は良好で、品質は中の上、同時期の「布目早生」よりも優れている。日持ち性は良好で、「布目早生」、「砂子早生」よりも優れる。核は粘核で、短楕円形、大きさは中位である。大玉果にすると核割れ果が見られるため、品質の良い果実を生産するには220g程度を目指すことが望まれる。結実が良く、成熟日数が短い品種であるため、摘らいを行い、摘果も早めに行うことが望ましい。

■病虫害抵抗性

早い時期に収穫できるので病害虫の被害が比較的少ないが、カメムシ、アブラムシ、カイガラムシ、ダニなどの加害には注意する必要がある。

■地域適応性

本品種は樹勢が適度であり、結実や着色も良好なため栽培しやすく、九州、四国から東北にかけて栽培の適地は広いと思われる。また、早生種であるため施設栽培にも適する。

(猪股雅人)